本日は、福島県知事代理・副知事　鈴木正晃様、福島県議会議長代理・副議長　佐藤政隆様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、ここに福島県立安達高等学校、創立１００周年記念式典を挙行できますことは、この上ない喜びであります。学校を代表し、心から感謝を申し上げます。

本校は、大正１２年４月１６日、当時の二本松町だけでなく安達郡内各町村をはじめとして、日本全国から多くの浄財を集め、地域の人々の熱い期待を背負い、福島県立安達中学校として、男子１００名の入学生を迎えて現在の地に開校されました。

一方、女子の学校として、既に、創立が大正７年の二本松町立実科高等女学校がありました。県立ではなく町立の女学校でしたが、この学校は、太平洋戦争終戦後の昭和２１年に県立に移管され、安達高等女学校と名称が変わり、昭和２３年には県立安達女子高等学校とさらに名称が変更となりました。

男子校であった旧制安達中学校は、戦後の学制改革に伴い、昭和２３年に県立安達高等学校に名称が変更され、併せてこの年、小浜・大平・針道・石井・旭・渋川分校が同時に設置されました。昭和２５年には、安達女子高等学校と男子校の安達高等学校が統合され、男女共学の新制安達高等学校が誕生しました。同時に、本校舎には夜間定時制も設置をされております。

その後、数多く設置された分校は、統廃合を繰り返し、昭和４８年、残っていた針道・岩代・大平分校が統合され、安達東高等学校として独立します。そして、本、安達高等学校の分校の流れをくむ安達東高校は、昨年度、創立５０周年を迎えましたが、この春、二本松工業高校と統合され、二本松実業高校として新たなスタートを切っております。また、本校に設置されておりました夜間定時制高校も、平成８年３月に閉校し、長い歴史にピリオドを打ちました。

そして本年、令和５年に安達高等学校は創立１００周年という記念すべき年を迎えました。

この１００年の間、本校は安達地区の中核校として地域と共に歩み、多くの卒業生を輩出し続けています。この中には、旧制中学第２回の卒業生で、Ｘ線ＣＴ検査法の研究により放射線医学の先駆者として昭和５９年に文化勲章を授与された高橋信次博士など、その数は３万１千名に上ります。これらは、在校時代、文武両道の校風の下、同じ学び舎で学び、苦楽を共にし、切磋琢磨してきた同窓生の皆様のたゆまぬ努力や、生徒達を時に厳しく、時に優しく支え、励まし導いてきた本校教職員、そして、本校を温かく包み見守って下さっております、多くの地域の皆様のご尽力の賜物であると深く感謝申し上げる次第です。

さて、我が校の校歌は、作詞を「荒城の月」でお馴染みの土井晩翠先生が、作曲を「どんぐりころころ」でお馴染みの梁田貞先生がお作りになりましたが、この校歌が制定されたのは、戦前の昭和３年になります。とても穏やかで美しいメロディーは、９５年たった現在でも色あせることなく、生徒は勿論、多くの同窓生の皆様にも愛され口ずさまれています。この校歌には「安達のまゆみ　古しえの　歌に詠まれし　跡遠し」と謳われていますが、本校正門わきに植えられているまゆみの木は、万葉の昔から安達地域に縁が深いもので、多くの和歌に読まれてきた木であり、校章にもデザインされています。

一つ、強靭であれ、その木の如く。

一つ、しなやかであれ、その枝の如く。

一つ、清楚であれ、その花の如く。

一つ、誠実であれ、その朱き実の如く。

本校では、生徒の成長する姿を、まゆみの木の様子に例えて「まゆみの精神」として代々校訓として受け継いできました。本校生は、このまゆみの精神をモットーとして、学業はもとより、学校行事や生徒会行事やボランティア活動などにも積極的に取り組み、豊かな人間となれるよう努力を続けています。

本校は、このように先輩方が脈々と守ってきた文武両道の伝統を受け継ぎつつ、東日本大震災以降の社会情勢の変化や地球的、国際的な問題への対応等について探究し、生徒が新たな未来を自ら切り開いていくための教育を実践しています。具体的には、東日本大震災とそれに続く原発事故が起きた平成２３年から直ちに、福島の復興についての学びを行い始めました。この中では、原子力に代わるエネルギーの問題や環境問題、地域の発展につながる社会問題等について、生徒の主体的な学びによる探究活動を行っております。また、県内や国内に限らず、世界が抱えている様々な問題にも視野を広げ、地域の専門家のアドバイス等を受けながら、生徒は調査や研究を行い、多面的な視点に基づく討論などを通して、生徒自身で課題に対する考えを深化させる活動も行うようになっています。そして平成２４年１２月、こうした取り組みが認められ、県内の高校で初めてユネスコからユネスコスクールに認証されました。それ以降、本校は、ユネスコや文部科学省が進めるＥＳＤ（持続可能な発展のための教育）を柱に、ＳＤＧｓに掲げられた１７個の目標に真摯に取り組むことを通して、持続可能な社会の形成に積極的にかかわろうとする生徒を育成しているところであります。

なお、これまでの主な成果といたしましては、平成２５年の全国ユネスコスクールのグランプリとなる「ＥＳＤ大賞」の受賞や、昨年度は、ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会において、ポスターセッション部門の最優秀賞を受賞するなど、数多くの顕著な足跡を残しています。

また、部活動も盛んで、多くの部が県大会に出場し活躍するなど活発に活動しています。本年は、カヌー部がインターハイや国民スポーツ大会にも出場しました。

このように、生徒が活発に教育活動を行う中、県教育委員会から、この春、スクールミッションとして、本校のあるべき姿が示されました。その中にある本校の目指すべき学校像では、「ユネスコスクールに認定された県内初の高校として、国際理解教育や復興教育を踏まえ、ＥＳＤの理念に基づく探究型学習を実践することにより、地域社会の未来を創造する学校」と定義付けられました。本校は、安達地域の中核校として、地元で育った生徒を受け入れ、探究活動で答えの無い問いに向き合い、互いに切磋琢磨して力を伸ばして卒業させる。その卒業した生徒達が、地元で生活して、地域社会の未来を創造・発展させ、家庭を作り、その子供がまた安達高校に入って学んでゆく。私は安達高校を、そのような地域と共に生きていく学校にしたいと思っています。

１００年の歴史の上に立ち、次の１００年を見据えて、生徒から愛され、保護者から信頼され、同窓生から期待され、地域から「安達高校があって良かった」と思われる。地域と共に生き、地域を創造する学校になれるよう、誠心誠意、努力を重ねて参りますことをお誓い申し上げます。

最後になりますが、本校創立１００周年に当たり、多大なるご寄付を賜りました地域の皆様や同窓生の皆様、また、本式典に際し、ご臨席くださいました多くの関係者の皆様に改めて深く感謝を申し上げ式辞といたします。

令和５年１０月２８日

県立安達高等学校長　　伊藤　勝宏